

日本家庭医療学会会報

第58号

発行日 2007年2月15日

ホームページ: <http://jafm.org/> E-mail: jafm@a-youme.jp

第14回家庭医の生涯教育のためのワークショップ報告

期 日 2006年11月11日(土)15:30~12日(日)15:00

場 所 天満研修センター(大阪市北区)

参加者数 184名

講師数 22名



- 11月11日(土)
家庭医のための「感染症に強くなる」 岩田健太郎 氏
- 11月12日(日)
「プライマリ・ケアでの尿路感染症および性感染症」 荒川 創一 氏
「かぜ症候群へのアプローチ、抗菌薬使う? 使わない?」 ... 田坂 佳千 氏
「膝の診かた」 仲田 和正 氏
「家族志向のプライマリ・ケア」 原田 唯成 氏
~ 家族システム理論を用いて家族を理解する~ 齊藤 裕之 氏
田中 久也 氏
「ウイメンズヘルス」 井上真智子 氏
~ 医療面接だけでこままでできる~ 早野 恵子 氏
西村 真紀 氏
「認知症をかかえる家族へのサポート」 佐藤 武 氏
「動悸を訴える患者さんが外来に来たら」~ 不整脈~ 伊賀 幹二 氏
「小児の発熱を伴う気道感染症を科学する」 原 三千丸 氏
「旅行医学」 溝尾 朗 氏
「めまい」 池田 正行 氏
「こころアレルギー」~ 不安・うつへの理解を深めるために~ ... 佐藤 武 氏
「市中肺炎」 中浜 力 氏
「楽しく無理のない禁煙支援ノウハウ」 高橋 裕子 氏
~ 日ごろの疑問や悩みをスッキリ解消~ 三浦 秀史 氏
「臨床栄養」~ 家庭医が知っている役立つ栄養の知識~ 佐藤 健一 氏
「今晚から使える! 日常診療での効率のよい情報収集の方法」 ... 南郷 栄秀 氏
「診療所実習・研修を充実させるために」 大滝 純司 氏

この号の主な内容

- 第14回 家庭医の生涯教育のための
ワークショップ報告 1
- 日本家庭医療学会 理事会 議題
..... 2
- 第2回 若手家庭医のための家庭医療学
冬期セミナー 8
- 第4回 家庭医療後期研修プログラム認定
と指導医養成のためのワークショップ
..... 11
- 第22回 日本家庭医療学会 学術集会・総会
..... 12
- 日本家庭医療学会認定 後期研修プロ
グラムの本認定(平成19年度)について
..... 19
- 3学会座談会「日本国民の望む家庭医の
育成を目指して」
..... 19
- 患者教育用パンフレット作成
ワーキンググループ募集
..... 20
- 「生涯学習(CME)に役立つツール」特集
..... 21

参加者の声

岩田先生のお話と臨床栄養のワークショップ参加で、翌日からの診療の質が変わりました! 溶連菌に対するペニシリン使用の重要性や低栄養に対する早期介入の重要性などこれまでモヤモヤしていたことがすっきりした気がします。



日本家庭医療学会 理事会 議事録

日 時：2006年8月6日（日）7:00～9:00

会 場：湯沢グランドホテル2階 『高砂』

出席者：代表理事 山田隆司

副代表理事 竹村洋典

理 事 雨森正記、生坂政臣、大西弘高、岡田唯男、亀谷 学、草場鉄周、
小林裕幸、白浜雅司、西村真紀、伴信太郎、藤沼康樹、松下 明、
三瀬順一、森 敬良、山本和利

監 事 津田 司

若手家庭医部会 飛松正樹

学生・研修医部会 竹之内響、前川道隆

（以上、敬称略）

理事会定数18名中17名の出席により、理事会成立

山田代表理事の挨拶に続き、指名理事により新役員となった理事の就任挨拶が行われた。

山田代表理事より、幹事として福土元春先生が出席されている旨が述べられた。

1. 会員数報告、新入会員承認、会費未納退会者

事務局より、7月31日現在の会員動向の報告があり、承認された。

会員数：1,258名（うち、医師会員1,109名）

入会者： 75名（2006年5月11日～2006年7月31日）

退会者： 0名（2006年5月11日～2006年7月31日）

未納者： 94名（H15まで納入済）

2. 平成18会計年度中間報告

事務局より、中間決算について報告があった。会員名簿および選挙関連の資料印刷費用として、管理費の印刷製本費が予算を多少上回ったことが報告され、承認された。

3. 常設委員会・部会報告（前委員長または担当委員）

家庭医療プログラム・専門医認定検討委員会

山田代表理事より、プログラム認定についての3学会での協議事項等について報告された。

編集委員会《会誌『家庭医療』》

藤沼委員長より、第2号は10月中を発行予定とし、現在準備を進めていることが報告された。

広報委員会《会報、WEBサイト》

松下委員長より、ホームページ内に「会員ページ」と「掲示板コーナー」を新たに開設したことが報告された。

研修委員会《生涯教育ワークショップ》

竹村副代表理事より、「第14回家庭医の生涯教育のためのワークショップ」について報告があり、これまで委員長を務めていただいた武田先生に代わり、次回からは今回の理事会で決定する新役員が担当となることが述べられた。

研究委員会《学会賞、課題研究、臨床研究初学者のためのワークショップ》

・山本委員長より、学会賞および研究補助金、臨床研究初学者のためのワークショップについて報告があった。

・次期学術集会大会長の白浜理事より、学会賞候補発表の時間について質問があり、研究委員会にて決定することとなった。また、候補対象者の年齢制限や、課題研究の課題等について検討を行い、次回までの継続審議となった。

倫理委員会《申請研究に対する結果》

白浜委員長より、倫理委員会の規定を改訂したことが報告された。

若手家庭医部会《若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナー、キャッチフレーズ募集、ロゴマーク募集》

森理事より、若手家庭医部会にて、昨日会合を行い、各プロジェクトからの報告等を行ったことが述べられた。(若手家庭医部会会議事録参照 <http://jafm.org/wakate/giji/index.html>)

学生研修医部会

学生・研修医部会代表の竹之内氏より、第18回夏期セミナーについて報告があり、次回は千葉県で行うことが述べられた。さらに、学生・研修医部会の前川氏より、学生・研修医部会の新担当理事への要望などが述べられた。

白浜理事より、会合等で発生する旅費を補助することについて提案がなされた。これに対し、山田代表理事より、現在の費用内訳と自己負担等について学生・研修医部会に報告してもらい、それをもとに執行部にて旅費規程等の原案を作成・提案することが述べられた。

4. 各委員会・部会の担当理事について

各委員会・部会の新担当理事について審議された結果、下記のとおり決定した。

* 編集委員会(1名)

藤沼 康樹 先生

* 広報委員会(会報とネットで2名)

三瀬 順一 先生・松下 明 先生

* 研究委員会(WS充実で3名)

生坂 政臣 先生・草場 鉄周 先生・山本 和利 先生

* 生涯教育委員会(2名)

雨森 正記 先生・伴 信太郎 先生

* 倫理委員会(2名)

白浜 雅司 先生・西村 真紀 先生

* 後期研修(プログラム認定)委員会(執行部+2名)

大西 弘高 先生・亀谷 学 先生

* 後期研修(FD)委員会(執行部+1名)

岡田 唯男 先生

(以下は、部会)

* 若手家庭医部会(1名)

森 敬良 先生

* 学生・研修医部会(1名)

小林 裕幸 先生

・各委員会のメンバーについては、理事を含めて5名以内の当学会会員とし、次回理事会までにメンバーリスト上に報告するか、あるいは理事会当日に報告することとなった。

・岡田理事より、FDとPG認定についてはなるべく一

緒に活動ということで、ミーティングを理事会ごとに開催したいとの要望が出された。

5. 後期研修プログラムの申請について

山田代表理事より、後期研修プログラムの仮認定の状況等について報告されたのち、意見交換が行われた。

6. 後期研修プログラム認定と指導医養成のためのWSについて

山田代表理事より「後期研修プログラム認定と指導医養成のためのWS」の今後の開催予定について報告され、3月17-18日は総合診療医学会総会と重なるため変更する予定であることが述べられた。

7. 家庭医の生涯教育のためのWSについて

(3.常設委員会・部会報告「研修委員会」を参照)

8. 冬期セミナーについて

若手家庭医部会の飛松先生より、冬期セミナーの進捗状況について報告があり、11月を目処にWS案内と参加登録が開始できるよう準備を進めていることが述べられた。

9. 第22回(2007年)学術集会について

白浜理事より、第22回学術集会の進捗状況について報告された。

・広告収入や寄付の受付、ランチョンセミナー開催や外部労力の依頼等について意見交換が行われ、決定については大会長に一任することとなった。

・参加費について、事前登録8,000円、当日10,000円、学生2,000円との提案がなされ、了承された。

10. 第23回(2008年)学術集会について

大会長の選任について審議され、推薦・立候補が出なかったため、次回までの継続審議となった。

・大会長の選出方法について意見交換が行われた結果、大会長は理事の中から選出することとなった。

・竹村副代表理事より、来年(2007年)のPC学会の共同企画について議論の要望が出され、今後の検討課題となった。

11. 若手家庭医部会によるWGから

竹村副代表理事より、前回理事会からの継続審議となっていた患者教育用のパンフレット作成について、若手家庭医部会から作成に関わりたいという要望があ

ることが報告された。審議の結果、学会のWGという枠組みで松下理事が担当となり事業を進め、WEBへの掲載等については理事会の承認を受けることとなった。

12. 臨床研究初学者のためのワークショップと日本総合診療医学会の研究インタレストグループの統合について
竹村副代表理事より、臨床研究初学者のためのワークショップと日本総合診療医学会の研究インタレストグループの統合についての話の経緯について説明があり、統合できるよう話を進めることで了承された。

13. その他

・山田理事より、3学会の合同開催について最終的な結論は出ていないが、現時点では3年に1回を目処に

開くことで合意したことが報告された。

- ・岡田理事より、臨床研究初学者のためのWSは、学会としての認知が取り残されているとの問題が提起された。これに対し、竹村副代表理事より同WSが今後、統合という話の中でクローズではなく多くの人に利益が還元できるような運営を、との提案がなされた。
- ・岡田理事より、学会の外部への広報活動について提案があり、話し合いがもたれた。
- ・山田代表理事より、当学会からの在宅医療推進フォーラムへの参加依頼および共催依頼があったことが報告され、学会代表として参加することについて承認された。また、共催については資金面での協力が必要か否かを事務局にて確認することとなった。

日本家庭医療学会 理事会 議事録

日 時：2006年11月12日（日）8:00～11:00

会 場：天満研修センター 3階302号室

出席者：代表理事 山田隆司

副代表理事 竹村洋典、（以下は、委任状による出席）葛西龍樹

理 事 雨森正記、生坂政臣、亀谷 学、草場鉄周、小林裕幸、西村真紀、伴信太郎、三瀬順一、森 敬良、山本和利、（以下は、委任状による出席）大西弘高、岡田唯男、白浜雅司、藤沼康樹、松下 明）

監 事 津田 司、藤崎和彦

幹 事 福土元春

オブザーバー 阪本直人（岡田唯男代理）

若手家庭医部会 飛松正樹

（以上、敬称略）

理事会定数18名中18名（うち委任状出席5名）の出席により、理事会成立

1. 会員数報告，新入会員承認，会費未納退会者
山田代表理事より、10月31日現在の会員動向の報告があり、承認された。

会員数：1,326名（うち、医師会員1,177名）

入会者： 72名（2006年8月1日～2006年10月31日）

退会者： 4名（2006年8月1日～2006年10月31日）

未納者： 91名（H15まで納入済）

2. 平成18会計年度中間報告

山田代表理事より、平成18会計年度中間報告があった。津田監事より、会費納入率の報告について要望があり、次回理事会から会費納入率の報告を行うことに

なった。

3. 常設委員会・部会報告

編集委員会《会誌『家庭医療』》

事務局より、11月13日の週に会誌を発送する予定であることが報告された。

広報委員会《会報，Webサイト》

三瀬委員より、今のところ委員の選任はしていないが、募集したいので推薦があれば言ってほしいとの要望があった。

生涯教育委員会《生涯教育ワークショップ》

伴委員長より、昨日、新委員メンバー（雨森先生、武田先生、田坂先生、一瀬先生）にて、第一回目の生涯教育委員会を開催したことが報告され、来年度のワークショップも大阪で、11月10、11日の土・日で行い、準備等に関しては、これまでと同様にブレインをMLで募る方向で検討されている旨が述べられた。また、生涯教育ワークショップで非常に人気の高いワークショップを、学会が企画、主催または共催して多地域で開催することが提案された。

その他、生涯教育委員会の役割の範囲について質問があり、審議された結果、各委員会が担う役割を次回理事会までに提出することとなった。

研究委員会《学会賞，課題研究，研究初学者のためのワークショップ》

山本委員長より、新委員メンバー（生坂先生、草場先生）について報告された後、学会賞は前回同様に学術集会時に応募演題の中から行うこと、研究補助金の公募を行うことが述べられた。

研究初学者のためのワークショップについては、現在3回が終了し、最後の4回目を来年の1月末に行う予定であることが報告された。

倫理委員会

竹村副代表理事より、前回理事会後から申請がなかったことが報告された。

後期研修(プログラム認定)委員会、後期研修(FD)委員会

山田代表理事より、12月16、17日に3回目のWSを予定していること、前回は9月23、24日に行われ、家庭医療研修プログラム関連の施設が多く参加されたことが報告された。

若手家庭医部会《若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナー、キャッチフレーズ募集、ロゴマーク募集》
森理事より、若手家庭医部会の活動について下記が報告された。

- ・近日中に若手家庭医部会HPに、部会の部署やプロジェクト、責任者等について掲載する予定
- ・キャッチフレーズは、学会宛に投票依頼を郵送する予定。決定は、2月の理事会にて
- ・ロゴマークは、延べ7通の応募があり、若手家庭医部会の中で投票して決定する予定

・その他のプロジェクトについては、同日午後から若手家庭医部会の会合をして相談する予定

キャッチフレーズの投票依頼文について審議され、一部を訂正した後に、学会誌発送時に同封して郵送することとなった。

学生研修医部会

小林理事より、新委員メンバーとして、前野先生に依頼する予定であることが報告された。

来年度の夏期セミナーは、8月4～6日に千葉県野田市のクリアビューゴルフクラブ&ホテルで行うことが報告され、準備委員会にて準備が進んでいることが述べられた。

今年度の夏期セミナーの会計を公開することについて提案があり、承認された。

来年度の学術集会では、ワークショップでミート・ザ・エキスパートを行う予定があり、理事の先生には、なるべく参加していただく方向で検討されていることが述べられた。また、初学者向けのナイトセッションは、『都市と地方の家庭医療の違い』と、『家庭医のやりがい～抱えている苦悩などの話』というテーマで行うことが検討されていると報告された。

津田監事より、前回理事会で審議された夏期セミナー開催準備のための会議費や交通費、宿泊等の概算を提出することについて質問が出された。これに関して、小林理事より、会議室代のみを補助金とは別に学会で負担することになったと報告され、この件については、後日、議事録などで報告する予定であることが述べられた。

4. 後期研修プログラムの申請について

(平成18年度仮認定、平成19年度本認定)

- ・山田代表理事より、現在までに19のプログラムが平成18年度仮認定プログラムとして認定を受け、4つのプログラムが申請中であることが報告された。
- ・山田代表理事より、認定の要件としてプログラム名の中に「日本家庭医療学会」または「家庭医療」という用語を記載することが提案され、審議された結果、同用語の記載を推奨するという表現に留めることとなった。
- ・津田監事より、後期研修定員数の記載が、一学年の定員か全体の定員かについて質問があり、一学年の定員であるが、次年度の申請書で再度確認することとなった。
- ・生坂理事より、後期研修の募集人数が、実際に後期

研修プログラムを組める可能な人数であることを審査の対象とすることが提案され、提案どおり審査の対象に加えることとなった。

- ・山田代表理事より、本認定については12月のWSで正式に決定した上で申請書を公示し、2月末を締切として本認定の申請を受け付ける予定であることが述べられ、承認された。
- ・伴理事より、認定委員会のメンバー構成について質問があった。これに関し、現在は執行部だけでやっていることが報告され、認定委員会を組織することについて今後検討していくこととなった。
- ・津田監事より、プログラムに変更があった場合の申請方法について質問があった。これに関し、山田代表理事より、最初のうちは3年以内で認定していくことも検討していることが述べられた。

5. 学会認定指導医について

学会認定指導医、プログラム責任者の認定方法について審議された結果、プログラム責任者については、現時点では、学会員かつ「後期研修プログラム認定と指導医養成のためのワークショップ」に参加していることを要件とし、家庭医療指導医と専門診療科指導医についても、現時点ではプログラム責任者の責任において認定することとなった。その他の詳細な要件、および指導医の要件については、今後検討されることとなった。

6. 後期研修プログラム認定と指導医養成のためのWSについて (常設委員会・部会報告を参照)

7. 冬期セミナーについて(若手家庭医部会)

若手家庭医部会の飛松先生より、冬期セミナーの進捗状況について報告があり、12月中旬に参加登録が開始できるよう準備を進めていること、参加対象者についての提案等がなされた。

また、補助金20万円について申請があり、承認された。

8. 第22回(2007年)学術集会について

山田代表理事より、学会補助が現時点の見積もりで約200万円であることが報告された。

亀谷理事より、参加者が会場に入れないなどの問題が起こらないよう、配慮する必要があるとの提案がなされた。

竹村副代表理事より、参加費の料金設定が妥当かど

うかについて質問があり、審議した結果、参加費は変更されないこととなった。

抄録集への施設広告の掲載料について審議された結果、一面5万円、半分は2万5千円となった。

西村理事より、学術集会の際に設置を予定している託児所について、料金を2千円として4月末まで受け付けを行い、キャンセル待ちのご案内は当日まで行うことが提案され、承認された。また、託児所設置にかかる費用は、学会が負担することとなった。

その他、労務提供依頼、ランチョンセミナーの進捗状況について報告等が行われた。

9. 第23回(2008年)学術集会について(大会長の選任)

第23回(2008年)学術集会の大会長の選任について審議された結果、執行部から岡田先生、前野先生、葛西先生に連絡をとり、依頼することとなった。

10. 団体会員について

団体会員の要件について審議したところ、過去に賛助会員の制度について提案されたことが分かり、継続審議となった。

11. 市民向けホームページについて

市民向けホームページについて提案があり、審議の結果、作成する方向となり、広報委員会が担当することとなった。

12. 書籍等出版について

書籍等出版について提案があり、審議の結果、生涯教育委員会が担当して進めていくこととなった。

13. 市民向け公開講座について

市民向け公開講座について提案があり、継続審議となった。

14. 掲示板(学会ホームページ内)への掲載内容の基準について

学会ホームページ内の掲示板への掲載内容の制限について審議された結果、掲示板の管理は広報委員会に一任することとなった。ただし、掲載可否についての判断がつきにくい内容については、執行部に連絡し、不適切と認めた場合は通知、あるいは理事会にかけるなどの対応をとることとなった。

また、掲示の期限については3ヶ月とすることとなった。

15. 家庭医療再研修に関するホームページについて

西村理事より、再研修プログラムの情報を学会ホームページに掲載することが提案された審議の結果、仮認定として登録されたプログラムの中で再研修について提供していただけたところは、掲示板（現・その他関連のお知らせ）に掲載することとなった。

16. 平成18年度 日本家庭医療学会 研究補助金「課題研究」の研究テーマについて

研究補助金「課題研究」の研究テーマについて審議された結果、「家庭医のやりがい」に決定し、提出期限を平成19年1月31日として募集することとなった。

17. 日本総合診療医学会との研究に関する共同事業

継続審議となっている日本総合診療医学会との研究に関する共同事業について、まずは当学会の研究委員会と、日本総合診療医学会の研究部門で協議することとなった。

18. 患者教育パンフレット作成について

竹村副代表理事より、松下理事から、患者教育パンフレット作成WGのメンバーをホームページ上で公募する予定であること、質の管理に理事会MLや各専門医学会へのコンサルテーションをしていきたいとの要望があることが伝えられ、承認された。

19. 会員証（英語名入り）について

会員証の作成について、希望者には医師である確認

を行ったうえで発行することが提案され、形式等については今後検討してゆくこととなった。

20. ノベルティ（ネクタイ、ボールペンなど）について

ノベルティの作成について提案があり、審議された結果ロゴマークの改定を含めて次回理事会にてより具体的な提案を行うこととなった。

21. 事業ごとの謝金、交通費、宿泊費、参加費について

事業ごとの謝金、交通費、宿泊費、参加費の規定について審議された結果、現状での運営は柔軟性を持つて行うものの、ある程度の基準を設けることについても継続して審議することとなった。

22. 在宅医療に関する宣言について

日本在宅医学会より「在宅医療に関する宣言」に学会名を連名で表記することについて申し入れがあり、審議の結果、了承することとなった。なお、今回は急な申し入れだったことから、今後は余裕を持って連絡していただくこと、また共同声明を他で紹介する場合には、事前に当学会へも確認をとっていただくようお願いすることとなった。

23. その他

次回理事会より、会議時間を3時間にすることとなり、下記日程で開催する予定であることが報告された。

平成19年2月11日（日） 8:00～11:00 /

トーコーシティホテル梅田（大阪）



第2回 若手家庭医のための家庭医療学冬期セミナー

日 程：2007年2月10日（土）～2月11日（日）

会 場：トーコーシティホテル梅田

〒530-0054 大阪市北区南森町1-3-19 TEL.06-6363-1201 / FAX.06-6363-5078

地下鉄谷町線 東梅田駅 南森町駅 下車 地下鉄2号出口すぐ

参加対象：若手家庭医（家庭医をめざし後期研修を行う医師。卒後3-10年目）を対象としますが、家庭医をめざす初期研修医およびプライマリケアに従事する医師の参加も歓迎いたします。

定 員：100名

参加費用： 日本家庭医療学会会員：22,000円

非会員：25,000円

参加費には、ワークショップ参加費、朝食、懇親会費、宿泊費が含まれています。

託児所利用料：お子様お一人あたり 3,000円

2日目昼食弁当代：1,000円

URL：<http://jafm.org/wakate/touki02/index.html>

お問い合わせ・連絡先E-mail：seminar-wakate@a-youme.jp（冬期セミナー事務局宛）

（開催しました）

内容：

1日目（2月10日）

開会講演

講演1.「家庭医との出会い、家庭医になるための出会い」..... 月ヶ瀬診療所 藤原靖士 氏

講演2.「家庭医が親になるということ」..... 守屋文香 氏

必須ワークショップ

ワークショップ1.「地域・コミュニティをケアすることをどう学ぶか」

・講 師 医療法人 社団 カレス アライアンス・北海道家庭医療学センター

十勝更別サイト（更別村国民健康保険診療所）..... 北村 大 氏

” 山田康介 氏

弓削メデイカルクリニック 平野嘉信 氏

・指導医 医療法人 社団 カレス アライアンス・北海道家庭医療学センター

十勝更別サイト（更別村国民健康保険診療所）..... 山田康介 氏

COPC（Community Oriented Primary Care）、地域包括ケア、ヘルスプロモーション、予防医学、ポピュレーションストラテジーとハイリスクストラテジー...「地域・コミュニティを対象とした医療」をキーワードにした様々な用語が飛びかっています。そして、学会認定の後期研修プログラムには研修目標に「地域・コミュニティをケアする能力」とあります。家庭医はこの能力を身につけなくてはならない、ということです。

「地域・コミュニティをケアする」とはいったいどういうことなのでしょう？ またそれはどのようにして学び実践することができるようになるのでしょうか？ とともに考えてみましょう。

ワークショップ2.「たのしい家族志向のケア」

- ・講師 奈義ファミリークリニック 田中久也 氏
奈義ファミリークリニック 佐古篤謙 氏
奈義ファミリークリニック / 津山中央病院 吉本 尚 氏
東京医科大学総合診療科 斉藤裕之 氏
- ・指導医 奈義ファミリークリニック 松下 明 氏

日常診療で患者さんと、家族について話をすることはありますか？

家族を意識して診療をすると、患者さんと会うのがもっと楽しくなるかも知れません。さらに家族と知り合うことが、とてもワクワクするようになるかも。

患者さんやその家族とより上手に付き合うために、家族志向のケアについて学びましょう。家族カンファレンスのロールプレイを通して、基本原則や家族システムの内容を紹介します。

みなさんはロールプレイで役者になりきって、ワークショップを楽しんでください。きっと明日からの診療で患者さんをみる目が変わることでしょう！

懇親会

2日目(2月11日)

選択ワークショップ

ワークショップ3.「Evidence Based Medicine」

- ・講師 揖斐郡北西部地域医療センター 西川武彦 氏
- ・指導医 揖斐郡北西部地域医療センター 吉村 学 氏

お宅ではエビ、美味しく料理して食べられていますか？私たちは岐阜の山奥で学生や研修医に少しでも美味しくエビ料理を食べてもらおうと調理法を考えてきました。

今回のWSでは、家庭医療の現場で最もよく遭遇する訴えの一つである「腰痛症」、その初期診療をネタにした簡単レシピをご紹介します。新鮮なネタの集め方から、有病率/尤度比といった診断エビの基本的な使い方、患者さんへの適応や、診療の質を変容させるちょっとだけ高度な料理法や教育法も振り返りながら、お手軽にエビ料理を味わってみましょう。

エビ料理は全く初めてという方から、もっと美味しく食べたいという食いしん坊な方まで皆様の御参加をお待ちしております。

ワークショップ4.「家庭医こそが禁煙支援の推進者」

- ・講師 佐野内科医院 佐野公彦 氏
- ・指導医 奈良女子大学保健管理センター 高橋裕子 氏

禁煙支援は、単に禁煙することがゴールではありません。禁煙する人も支援者も、ゴールのむこうに新しい自分が見えるのが禁煙です。そして家庭医は最適な禁煙支援の担い手です。

今回のWSを通して、4月から保険適用された禁煙の治療や支援方法を学び明日からの診療に直接的に役立つノウハウを身につけていただきます。

これを機に1人でも多くの家庭医が禁煙支援に携わっていただけることを願います。

ワークショップ5.「リハビリテーション」

・講師 済生会横浜市南部病院リハビリテーション科 若林秀隆 氏

家庭医療にはリハビリテーションが含まれ、共通する部分が多いです。

しかし、リハビリテーションや障害の意味を的確に説明できる人は少ないと思われます。リハビリテーションの視点での機能評価（国際生活機能分類：ICF）を身につけると、障害を持つ患者さんの評価をより全人的にできます。

リハビリテーションの考え方や基本について、説明できるようになることを目標とします。また、家庭医療もリハビリテーションもチームマネジメントが必須ですので、マネジメントについてドラッカーの言葉で簡単に紹介します。

ワークショップ6.「生涯学習」

・講師 指導医 医療生協家庭医療学レジデンス・東京 藤沼康樹 氏

家庭医の成長は、コアとなるコンピテンスの基本を身につけるためのカリキュラムに基づく系統的なトレーニング（レジデンス）と、それに続く持続的な弱点補強を中心とした生涯学習によって保証されるといえます。特定の領域の知識・技能の深化を特徴とするタイプの従来の専門医型生涯教育法は家庭医には不適切ともいえます。家庭医にとっての生涯学習とはしたがって、自らの教育ニーズの把握＝気づきと、その解決のためのいくつかのツールを使用した教育方略と、結果の評価により成立すると考えられます。このワークショップでは、そうした生涯学習サイクルをシミュレートし、参加する皆さんの生涯学習のスタイルの変容を目指します。

ポストセミナー企画

「これで解決！ 若手の悩み」～若手家庭医徹底討論 若手家庭医部会

未来は明るい若手家庭医。でも少なからず悩みもあるはず。このセッションでは若手家庭医がよく遭遇する問題や悩み、不安を参加者で共有し、グループディスカッションを通して解決策を探っていきたいと思います。

ざっくばらんに語りましょう！ 沢山のご参加をお待ちしております。



第4回 家庭医療後期研修プログラム認定と 指導医養成のためのワークショップ

期 日 : 平成19年3月10日(土) ~ 11日(日)
10日 13:00 ~ 18:00 / 11日 8:30 ~ 12:00

場 所 : 都道府県会館 401号
東京都千代田区平河町2-6-3
(地下鉄 有楽町線・半蔵門線・南北線「永田町駅」、地下鉄 丸の内線・銀座線「赤坂見附駅」)
<http://www.tkai.jp/info/info.html#02>

到達目標 : 1. 日本家庭医療学会の家庭医療後期研修プログラムの本認定と指導医養成について、今後の活動内容・進め方をディスカッションする。

2. 家庭医療後期研修に役立つ教育技法を学ぶ。

対象者 : 現在家庭医療後期研修プログラムを運営している指導者、または将来立ち上げを計画している指導者(学会員に限る*)

* 非学会員の方は当日入会手続きをしていただけます。

代理参加も可。但し代理の場合も会員であることが条件です。

家庭医療後期研修プログラムのこれまでの状況を存じない方は、学会webサイト (<http://jafm.org>) より学会認定後期研修プログラム(バージョン1.0)をダウンロードしてご持参ください。

参加費 : 10,000円(懇親会費込み・当日お支払いください)
懇親会不参加の場合は5,000円

参加登録 : メール、ファックス、郵送のいずれかにて、件名に「家庭医療後期研修プログラム認定と指導医養成のためのワークショップ」、本文に「(1) 氏名、(2) 所属、(3) 連絡先(メールアドレスまたはファックス)、(4) 懇親会参加の有無」を明記のうえ、下記学会事務局に申請をお願いします。

日本家庭医療学会事務局

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-12-14 天真ビル507号

あゆみコーポレーション内

TEL : 06-6449-7760 FAX : 06-6447-0900

E-mail : jafm@ayoume.jp

申込締切 : 平成19年3月2日(金) 正午

内容 : 認定プロセスとFDについての話し合い

さらに詳しい内容が決定次第、学会ホームページにてお知らせいたします。

<http://jafm.org/edu/20070310.html>





第22回 日本家庭医療学会 学術集会・総会

会 期：2007年6月23日(土)～24日(日)

会 場：損保会館 (JR御茶ノ水駅 聖橋口)
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2丁目9
TEL. 03-3255-1299 FAX. 03-3255-1504

大会長：白浜 雅司 (佐賀市立国民健康保険三瀬診療所)

テーマ：家庭医のやりがい

参加費：(23日夜レセプションを含みます)

- ・会員事前登録(4月末まで) 8,000円
- ・一般参加、当日参加会員 10,000円
- ・学生(大学院生を除く) 2,000円
- ・会員家族 2,000円

事務局：第22回日本家庭医療学会学術集会事務局

(日本家庭医療学会 常設事務局内)

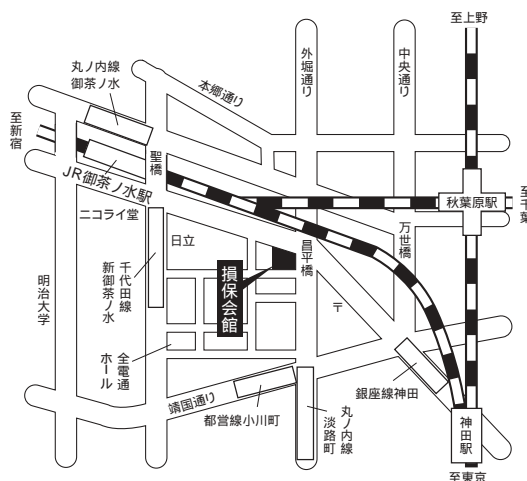
〒550-0003

大阪市西区京町堀1-12-14-507 あゆみコーポレーション内

TEL. 06-6449-7760 FAX. 06-6447-0900 (共用)

E-mail: jafm2007@a-youme.jp

学術集会ホームページ: <http://a-youme.jp/jafm2007/>



第22回 日本家庭医療学会 学術集会・総会

テーマ / 家庭医のやりがい



主催：日本家庭医療学会
共催：日本家庭医療学会 学術集会事務局
後援：日本家庭医療学会 学術集会事務局

会期：2007年6月23日(土)～24日(日)

会場：損保会館 (JR御茶ノ水駅 聖橋口)

お問い合わせ：<http://a-youme.jp/jafm2007/>

TEL: 06-6449-7760 FAX: 06-6447-0900



大会長あいさつ

今回、第22回日本家庭医療学会学術集会の学会長を担当する白浜雅司です。

最初大会長の話があった時、「小さな一人診療所の医師の立場で、お引き受けするのは難しい。」と断ったのですが、「今後の学会の健全な発展のために、地方の一人診療所の医師が大会長を担当できるような学会運営にしたい。事務的なことは学会事務局でやるから、プログラム委員長として、学会企画を手伝ってほしい。」という説得を受けました。

この学会の最初から関わってきた人間の一人として、お手伝いできることだけはすべきだと考え直し、学会理事会の先生方、学会員有志の皆さんに協力していただく形で学会長をお引き受けした次第です。

設立後15年ほどは、会員数が200名程度と伸び悩んでいたことがうそのように、最近の家庭医療学会は、どんどん会員数も増え、特に若い人が多く参加する活動的な学会になりました。

社会に貢献できる学会を目指してNPO法人化もなされ、現在家庭医養成のための後期研修プログラム認定作業が始まっています。

このような時期の家庭医療学会の学術集会として何が求められるかについて自分なりに考え、以下のようなことを目的にした学会を計画しました。

家庭医をめざそうとしている若い先生方、また色々な困難の中で家庭医としてがんばっている先生方に、家庭医のやりがい、面白さをきちんと伝えられる学会。

自分達だけで家庭医の理想を追い求めるだけでなく、日本の家庭医に望むことについて、一般市民、医療スタッフ、行政担当者、連携する専門医の声を聞き、それらの声にきちんと応えられるような家庭医を目指す学会。

家庭医の様々な働きや技術を学ぶ場を提供すること。その学びが、翌日からの日常診療に応用でき、最終的に自分、自分の患者さんや診療スタッフに役立つ学会。

家庭医として直面している問題を、仲間とともに考える学会。またそのようなことを相談できる仲間、ロールモデルに出会える学会。

これらの目標にしたがって、学会のテーマを「家庭医のやりがい」とし、全体セッションとして、1日目に、学会員の中から様々な年代、環境でがんばっている家庭医のロールモデルといえる先生方による「家庭医のやりがい」というシンポジウム、2日目に、日本のプロフェッショナリズム教育の指導者である東大教育学部の佐藤学先生による教育講演「家庭医のプロフェッショナリズム」、そして最後に様々な立場のシンポジストの意見を聞く「家庭医に望むこと」というシンポジウムを企画しました。

また今回新たな試みとして、WS、インタレストグループ、ナイトセッションを全て公募したところ、最終的には、40を超える企画の申し込みがあり、事務局はうれしい悲鳴で、調整に苦労しました。皆さんの熱意のあるご協力に心から感謝しています。ぜひ、それぞれの企画に積極的に参加され、多くの学びと、いい出会いをしてください。もうひとつ大切な一般演題（口演とポスター、学会賞候補の口演を含む）施設紹介ポスターへの参加もよろしくお願いします。

華美な懇親会はやめて、レセプションを兼ねたポスターセッションとナイトセッション、朝から軽い食事と飲み物を提供するインタレストグループの企画、託児所の開設など、盛りだくさんの企画を計画したことによる経費増と、受付業務簡素化のため、当日参加費は1万円と少し高く設定されています。どうか会員の方は4月末までの8000円の事前登録をご利用ください。

また学生さんと、会員家族の参加費は2000円に設定にしました。家庭医を支えている家族も参加できるような企画もありますので、ぜひ、学生さん、ご伴侶、子供さんを誘ってご参加ください。皆さんが熱心に勉強している姿を、学生さんや、家族に知っていただく貴重な機会にもなればと願っています。

2007年1月

第22回家庭医療学会学術集会会長

佐賀市立国民健康保険三瀬診療所 白浜雅司



プログラム

23日(土)

午前	<p>ワークショップ(テーマは仮題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表が「楽しく!!」なるプレゼンテーションのこつ ・家庭医のプロフェッショナリズムを探る ・家庭医だから出来る!楽しい禁煙支援 ・家庭医とウイメンズ・ヘルス ・日常診療とNLP(神経言語プログラミング) ・家庭医とスポーツ医学 ・ベッドサイドの嚥下障害の診かた、関わり方 ・心肺蘇生に関する事前指示(DNAR order)について ・根拠に基づいた予防医療:現在の健診・人間ドックの問題点と変革のための方略
午後	<p>一般演題</p> <hr/> <p>開会あいさつ、会長講演「三瀬村で学んだこと」 白浜 雅司先生(佐賀市立国民健康保険三瀬診療所)</p> <hr/> <p>シンポジウム1「家庭医のやりがい」 ~いろいろな年代、環境で働く家庭医に、それぞれの仕事の楽しみと課題を語っていただきます 司会: 藤沼 康樹先生(日本生協連医療部会家庭医療学開発センター・生協浮間診療所) 竹村 洋典先生(三重大学医学部附属病院総合診療部)</p> <p>演者(シンポジスト): 内山富士雄先生(内山クリニック院長、PCFMネット事務局、東京医科歯科大学医学部臨床教授) 生坂 政臣先生(千葉大学医学部附属病院総合診療部) 西村 真紀先生(川崎医療生協・あさお診療所) 草場 鉄周先生(北海道家庭医療学センター) 大橋 博樹先生(川崎市立多摩病院総合診療科)</p>
夕方	<p>総会、ポスター兼レセプション</p>
夜	<p>ナイトセッション(テーマは仮題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・診療所で行なわれている診療内容 ~へき地・離島診療所調査から~ 診療所ではどこまで担当すべきか 必要な診療能力・望ましい連携とは ・家庭医は本当に役立つのか ~医療経済学の視点から ・家庭医の家族との具体的な関わり方 ~あなたならどう対応します?~ ・総合診療と家庭医療 - その違いと共通点 - ・医師の配偶者・家族のためのワークショップ ・診療所での教育の工夫 こうしてみたらよかった! ・家庭医のやりがい、抱えている苦悩などの話(都市と地方両方の視点から)



プログラム

24日(日)

午 前	<p>インタレストグループ (テーマは仮題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・患者さんに家庭医の役割を知ってもらう ・地域包括ケア ~家庭医が地域の保健・医療・福祉に貢献するための方法論 ・家庭医の進路相談 ・医師 - 患者関係から生み出される家庭医療の魅力を探る ・禁煙支援よろず相談! ・家庭産科医 ・臨床現場で役に立つかわからないEBM講座 ・PCFMネットの今後の活動について ・インターネットを利用したコミュニティと家庭医 ~インターネットで拡げる家庭医の可能性 ・住み慣れた家で死ぬということ ~看取りの作法~ ・困った家族と楽しくつきあうコツ
	<p>ワークショップ (テーマは仮題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭医ならではの認知症診療 - さりげない認知症診療 - as if ・プラクティカルEBM ~統計数学や論文読解からの解放 ・MEET THE EXPERTS ・家庭医療実習・研修指導医の負担とやりがい ・家庭医療における高齢者外来診療の理論と方法 ・発熱 コモン エマージェンシー 感冒 or not ・研修終了の評価のあり方を考える ・必ず使える!家庭医に必要な眼底鏡・耳鏡の使い方 ・家庭医の地域貢献
	<p>学会賞対象演題発表</p>
午 後	<p>教育講演「家庭医のプロフェッショナリズム」 佐藤 学先生 (東京大学大学院教育学研究科)</p>
	<p>シンポジウム2「家庭医に望むこと」 ~専門医、看護師、行政、患者市民の立場から家庭医へ望むことを語っていただきます 司会: 白浜 雅司先生 (佐賀市立国民健康保険三瀬診療所) 山田 隆司先生 (社団法人 地域医療振興協会) 演者 (シンポジスト): 木原 康樹さん (神戸市立中央市民病院) 宮岡 等さん (北里大学医学部精神科) 中野 博美さん (伊豆保健医療センター看護部) 佐藤 敏信さん (厚生労働省医政局) 辻本 好子さん (NPO法人ささえあい医療人権センターCOML)</p>



演題募集

募集期間

2007年2月1日(木)~3月15日(木)午後3時

応募資格

筆頭演者は原則として本学会会員に限ります。

筆頭演者が非会員の場合は、演題申し込みと同時に、下記アドレスのページにて入会手続きを行って下さい。

入会案内 <http://jafm.org/admin/index.html>

募集テーマと分類番号・分類名

《募集テーマ》

家庭医療に関する全てのテーマで演題を募集します。

事例検討は、これまでの自分たちの診療でうまくいった事例あるいは逆にうまくいかなかった(いない)事例を、提示して、他の参加者の方々とよりよい対応を検討してみようという試みです。ぜひ日頃困っているような事例を提示してください。

《分類番号・分類名》

- 1 研究発表(口演)
- 2 研究発表(口演またはポスター)
- 3 研究発表(ポスター)
- 4 事例検討(ポスター)
- 5 学会賞候補演題(口演)
- 6 施設紹介(ポスター)

施設紹介(ポスター)は、採用された場合、別途15,000円の登録費用が必要になります。

抄録の書き方について

- ・分類番号1~5 ... 文字数は、演題名・演者名・演者所属機関名・抄録本文を全て含めて800字以内(半角文字、スペースも1文字でカウント)、かつ1ページ以内に収めて下さい。枠外の入力分は無効となります。
- ・分類番号6 ... 文字数は、演題名・研修責任者名・連絡先・抄録本文を全て含めて600字以内(半角文字、スペースも1文字でカウント)、かつ1ページ以内に収めて下さい。枠外の入力分は無効となります。
- ・図表(モノクロ)の掲載は可能ですが、1ページ目から文字や図表がはみ出さないように、抄録の文字数を減らすなどの調整を行って下さい。
- ・写真などの精密なものは、忠実な再現が困難な場合があります。
- ・姓と名の間は、一マス空けて下さい。
- ・英数字は、半角文字を用いて下さい。
- ・演題名・演者(所属)・抄録を全て含めて800字以内に収めて下さい。
- ・分類番号が1~3(研究発表)、5(学会賞候補演題)の場合は、【目的】【方法】【結果】【結論】【キーワード】でまとめて下さい。
- ・分類番号が4(事例検討)の場合は、【症例提示】【まとめ】【検討したい点】でまとめて下さい。



演題申し込み方法

- ・学術集会ホームページより、演題申し込み書式（WORD文書）または施設紹介申し込み書式（WORD文書）をダウンロードしていただき、E-mailにてお送り下さい。
 - ・WORD文書のファイル名は「筆頭演者名.doc」に変えて送信して下さい。
（例：ファイル名「家庭太郎.doc」）
 - ・E-mailの件名には「演題申し込み 筆頭演者名 会員番号」を必ず明記して下さい。
（例：件名「演題申し込み 家庭太郎 1-0000」）
- 演題の採否や発表形式などの最終決定は学会長及び実行委員会に一任願います。
演題受領確認は、E-mailでご通知する予定です。
演題のご応募後3日以上（土日祝を除く）経っても受領確認メールが届かない場合は、受領できていない可能性がございますので、必ず学会事務局までお問い合わせ下さい（演題募集期間を過ぎてお問い合わせいただいた場合、対応できかねますのでご注意ください）。
演題の採否、発表時間の決定は本ホームページ上でお知らせ致します。

学会賞候補演題対象者の方へ

筆頭発表者が日本家庭医療学会会員で、かつ2007年2月1日時点の年齢が満40歳未満の場合、学会賞候補演題となります。

これに当てはまる演題の応募の際は、メール本文に「学会賞候補演題 筆頭発表者の生年月日」を明記して下さい。
（例：件名「演題申し込み 家庭太郎 1-0000」、本文「学会賞候補演題 1975年1月1日」）

また、「演題申し込み書式」の「分類番号と分類名」には「5 学会賞候補演題(口演)」をご記入ください。

入会手続き中の方へ

演題登録を希望される方で、現在、日本家庭医療学会へ入会手続き申請中のときは会員番号を「9999」とご記入下さい。

（例：件名「演題申し込み 家庭太郎 9999」）

また、演題申し込みと同時に、下記アドレスのページにて入会手続きを行って下さい。
入会案内 <http://jafm.org/admin/index.html>

抄録の修正について

いったん登録された演題に修正の必要が生じた場合、申し込みの書式ごと差し替えますので下記のE-mail宛に書式を再添付して送付下さい。その際にE-mailの件名には「演題の修正 筆頭演者名」を明記して下さい。
（例：件名「演題の修正 家庭太郎 1-0000」）

抄録の削除について

削除の場合はE-mailの件名に「演題の削除 筆頭演者名」を明記の上、本文に「演題名」を記入して下さい。
（例：件名「演題の削除 家庭太郎 1-0000」、本文「家庭医のやりがい」）

演題申込にあたっての注意事項

演題発表は筆頭演者1人につき1題とします。ただし、共同演者としての連名はこの限りではありません。
本学会および他の学会でも未発表であることに限ります。
倫理規定に抵触しないことを守って下さい。
演題募集時にご提出いただいたテーマ分類は、実行委員会で一部変更させていただく場合がございます。発表形式の詳細については、座長・発表者の皆様へをご覧ください。
E-mailで送信できない場合は、フロッピー、MOディスクなどを郵送して下さい。



プライバシー保護について

個人情報保護法の施行に伴い、患者様の症例を学会や研究発表するときは、匿名化していただきます。氏名、生年月日、住所等を消去することで匿名化されると考えられますが、症例や事例により十分な匿名化が困難な場合は、本人の同意を得ていただきますようお願いいたします。ご注意の上、執筆下さい。

ご提出先

第22回日本家庭医療学会学術集会事務局

FAX. 06-6447-0900

E-mail : jafm2007@a-youme.jp

著作権について

本大会への応募演題の抄録ならびに論文の著作権は、抄録集の作成と配布、論文集の作成と配布、およびこのいずれかを全体として将来再利用し配布することに関して日本家庭医療学会に帰属します。また、WEB上で公開することについて承諾を得たものとします。

入会、演題募集、学術集会についてのお問い合わせ先

第22回日本家庭医療学会学術集会事務局

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-12-14 天真ビル507号

あゆみコーポレーション内

TEL. 06-6449-7760 / FAX. 06-6447-0900

E-mail : jafm2007@a-youme.jp

今後、以上の内容に変更等が発生した場合には、ホームページにてご案内させていただきます。定期的にホームページの更新内容をご覧ください。

事前登録のご案内

開催当日の受付の混雑を避けるため、是非ともご協力をお願いいたします。

会場での受付登録手続きが必要ないので、スムーズにご入場いただけます。

参加登録費が、当日登録に比べて廉価になっています。

また、ワークショップ、ナイトセッション、インタレストグループも「事前登録制」です。

各講演は、定員になり次第受付を終了させていただきますので、お早めにお申し込みください。

登録受付期間 : 4月1日～4月30日

登録受付サイト : <http://a-youme.jp/jafm2007/jizen.html>

託児室のご案内

学会期間中の2日間、会場内に専用の託児施設ルームを設け、学会事務局が委託契約するベビーシッター派遣会社による託児サービスを行います。

ご希望の方はお申し込みください。

予約受付期間 : 4月1日～4月30日

予約受付サイト : <http://a-youme.jp/jafm2007/takuji.html>

日本家庭医療学会認定 後期研修プログラムの本認定(平成19年度)について

平成19年度より、「特定非営利活動法人 日本家庭医療学会 認定 後期研修プログラム (バージョン1.0)」に則って研修を実施する後期研修プログラムの認定を行います。

下記アドレスより本認定申請書をダウンロードして、学会事務局宛へご申請ください。

<http://jafm.org/pgm/pgm2007.html>

本認定の申請は、平成19年2月28日までに行ってください。

3学会座談会「日本国民の望む家庭医の育成を目指して」

司 会 津田 司 (三重大学大学院医学系研究科 家庭医療学 教授)

出席者 日本プライマリ・ケア学会 会長 小松 真

日本家庭医療学会 代表理事 山田隆司

日本総合診療医学会 運営委員長 小泉俊三 (発言順)

学会ホームページにて、PDF版を公開しています。

なお、この内容は次号の学会誌『家庭医療』に掲載させていただく予定です。



患者教育用パンフレット作成 ワーキンググループ募集

「患者さんへの説明用の資料が今すぐほしい…」

家庭医の視点から書かれていて、かつ質が保証されている患者教育用パンフレットが、すぐ使えるところがあったらいいなという発想から、このワーキンググループが生まれました。

ワーキンググループで作成した患者教育用パンフレットは、学会の承認をうけた後、できる限り専門学会等のコンセンサスを得ることを考えております。

出来上がった患者教育用パンフレットは、順次ホームページにアップし、学会員の皆様にご利用しやすい環境を整えていきます。

個人レベルでは不可能な作業ですが、みなさんのパワーで無理なく楽しく作成できたらと思います。少しのご協力でも構いません。みなさんのご参加お待ちしております!!

どうぞよろしくお願いいたします。

まずはじめに、コアとして活動していただけるコアメンバーの方（10名程度）を募らせていただき、作業を開始したいと考えております。

コアメンバーとしての業務は、

- ・患者教育用パンフレットの定型フォーマット作成
 - ・患者教育用パンフレットとして必要な種類のリストアップ
 - ・メンバーが作成した患者教育用パンフレットの評価
- を現在のところは予定しております。

定型フォーマットに従い、各患者教育用パンフレットを作成するメンバー（200名）の作業開始は、4月頃を予定しております。

1つのパンフレットだけでもかまいませんので、ぜひぜひご協力よろしくお願いいたします。

患者教育用パンフレット作成ワーキンググループ

発起人 中村明澄（筑波大学医学専門学群 医学教育企画評価室）

担当理事 松下 明（奈義ファミリークリニック）

連絡先は以下のメールアドレスです。コアメンバーをしてもよいと思われる方、ぜひご連絡下さい。

E-mail : jafm-wg01@a-youme.jp



「生涯学習(CME)に役立つツール」特集



今回は日経メディカルOnlineをご紹介します。

<http://medical.nikkeibp.co.jp/>

雑誌で有名な日経メディカルのOnline版が登録すると無料で使用できます！
お勧めは

お役立ちボックス内の

- ・日経メディカル・過去記事検索
- ・患者指導ノート

連載ページとそのBack Numberで

【実用講座】患者にモテる医者になる！

前田 泉 氏 (スナッジ・ラボ社長)

【臨床講座】喘息治療のツボ (2006.7.11～11.6、全17回)

宮川 武彦先生 (宮川医院院長)

誰にも聞けない糖尿病の基礎 (2006.4.3～7.21、全15回)

岩岡 秀明 先生 (船橋市立医療センター内科副部長)



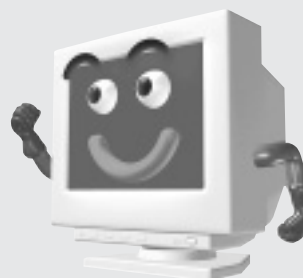
などです。月間で発行される雑誌は流し読みしても十分情報を活用できていないと思いませんか？

過去の記事を検索したり、過去の特集を利用したりとかなり利用価値のあるHPと思います。

学会ダイジェストというコーナーもさまざまな学会の主要発表をまとめていて面白い構成です。

一度お試し下さい。

奈義ファミリークリニック 松下明



事務局からのお知らせ



メーリングリストの加入について

メーリングリストに加入してコミュニケーションの輪を広げよう！

現在、約800名の会員が参加しています。希望者は以下の要領で加入してください。

参加資格

日本家庭医療学会会員に限ります。

目的

メーリングリストは、加入者でディスカッショングループを作り、あるテーマについて議論したり、最新情報を提供したりするためのものです。家庭医療学会の発展のために利用していただけただら幸いです。

禁止事項

メールにファイルを添付しないでください（ウイルス対策）。個人情報をこのリストの中に流さないでください（自己紹介は可）。ごくプライベートなやりとりを載せないでください。

加入方法

学会のホームページの「各種届出」のページから申し込むか、事務局宛に次の事項を記入の上、E-mailで申し込んでください。

会員番号（学会からの郵便物の宛名ラベルに記載されています）

氏名

勤務先・学校名

メールアドレス

会員であることを確認した上で登録いたします。

事務局メールアドレス：E-mail：jafm@a-youme.jp



入会手続について

当学会に関心のある方をお誘いください。学生会員も大歓迎です。入会手続については、学会のホームページの「入会案内」をご覧ください。事務局までお問い合わせください。

会費納入のお願い

会員の皆様の中で、会費の納入をお忘れになっている方はいらっしゃいませんか。ご確認の上、未納の方は早急に納入をお願いいたします。2年間滞納されますと、自動的に退会扱いとなりますのでご注意ください。ご不明な点は事務局へお問い合わせください。

異動届けをしてください

就職、転勤、転居などで異動を生じた場合はなるべく早く異動届をしてください。異動届は学会のホームページの「各種届出」のページからできます。または事務局宛にE-mail、FAX、郵便などでお知らせください。

編集後記

年4回発行するという計画を進めていますが、日常の雑務でどうしても会報発行が遅れがちで、申し訳なく思います。今回も生涯教育WSや後期研修関連WSなど医師の教育に関する内容が増え続けています。

ホームページをマメにチェックして積極的に御参加下さい。参加できなかった方のために一部はスライドも公開されています。そちらもぜひご利用下さい。

発行所：

特定非営利活動法人 日本家庭医療学会事務局

広報委員：

松下 明（会報担当理事）、三瀬順一

〒550-0003 大阪市西区京町堀1-12-14 天真ビル507号
あゆみコーポレーション内

TEL 06-6449-7760 / FAX 06-6447-0900

E-mail：jafm@a-youme.jp

ホームページ：http://jafm.org/